

2020年度 調査結果（2019年8月発行）

## 外国人留学生の就職活動状況

日本企業の多くが国際的な競争力強化を迫られる中、外国人留学生採用の機運は一層の高まりを見せている。ディスコではキャリアス就活2020に会員登録している外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

### 【主な調査内容】

1. 現在の日本語力	・・・・・・・・ P 2
2. 就職したい企業の種類	・・・・・・・・ P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じる点	・・・・・・・・ P 3
4. 日本企業のイメージ	・・・・・・・・ P 4
5. 就職後の出世希望ランク	・・・・・・・・ P 4
6. 就職したい企業の規模と志望業界	・・・・・・・・ P 5
7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	・・・・・・・・ P 6
8. インターンシップ	・・・・・・・・ P 7
9. 就職活動開始時期	・・・・・・・・ P 7
10. 就職活動量と内定状況	・・・・・・・・ P 8
11. 就職活動の難易度	・・・・・・・・ P 8
12. 企業に評価してもらいたいこと	・・・・・・・・ P 9
13. 就職活動の情報源	・・・・・・・・ P 9
14. 企業研究をする上で必要な情報／もっと発信してほしい情報	・・・・・・・・ P 10
15. 日本の就職活動でおかしいと思った制度や習慣	・・・・・・・・ P 11
16. 大学や公的機関で受けたいサービス・支援	・・・・・・・・ P 12

### 《調査概要》

調査対象：2020年3月卒業予定の外国人留学生（現在、大学4年生・大学院修士課程2年生）  
 調査方法：インターネット調査法  
 調査期間：2019年6月28日～7月18日  
 サンプルング：キャリアス就活2020に登録している外国人留学生2,774人

回答者の属性 単位：人

	男子	女子	合計
文系	86	141	227
理系	50	43	93
合計	136	184	320

大学院	165	国公立	145
学部	155	私立	175
合計	320	合計	320

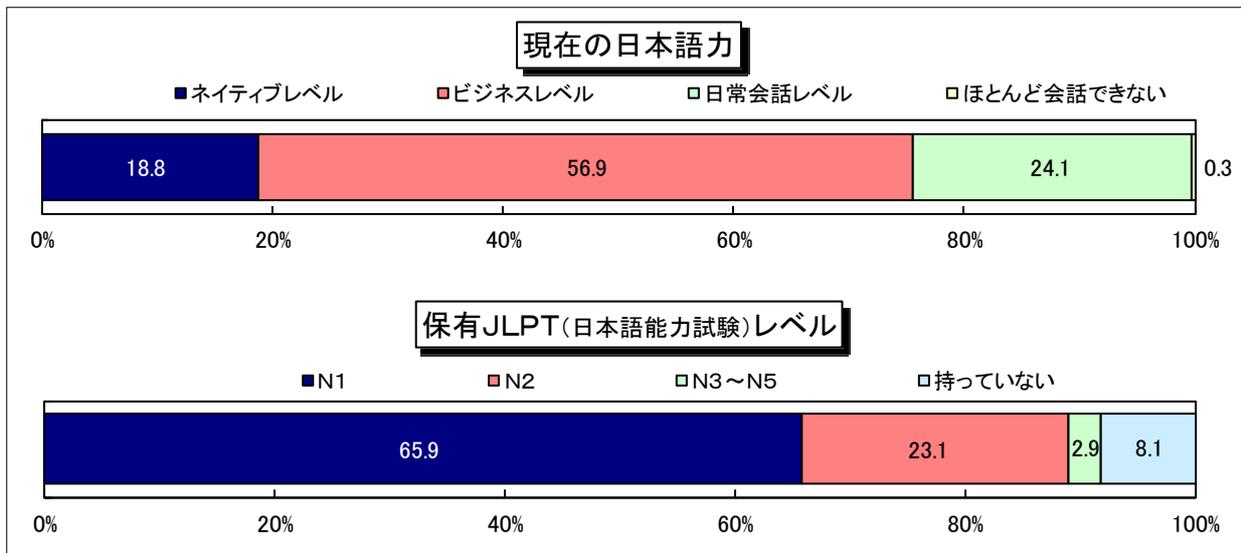
#### ●出身国・地域

中国	韓国	台湾	東南アジア	その他アジア	中東	ヨーロッパ	北米	南米	オセアニア	その他	合計
178	26	26	64	8	1	5	6	1	1	4	320

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活2020 学生モニター調査」（2018年11月、2019年1月～3月、7月調査）より  
 ※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2019年4月発行）より

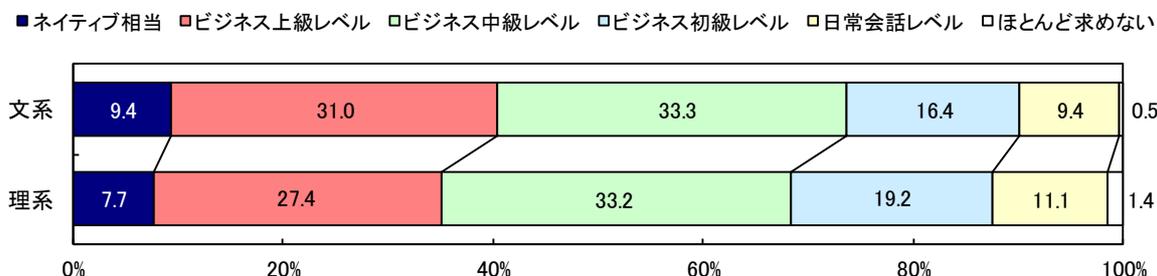
### 1. 現在の日本語力

はじめに、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(18.8%)と「ビジネスレベル」(56.9%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語を話せる外国人留学生は8割弱(計75.7%)。JLPT(日本語能力試験)のレベルについては、最高レベルである「N1」を保有している人は6割強(65.9%)。他方、「持っていない」人は1割に満たない(8.1%)。企業が求める日本語コミュニケーションレベルやJLPTの入社基準に達している外国人留学生は多い。

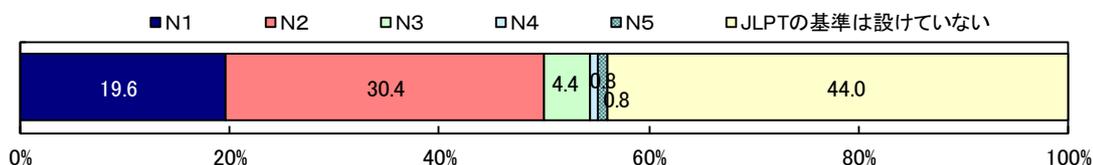


**【参考】**

**企業が外国人留学生の内定時に求める日本語コミュニケーションレベル**



**外国人留学生採用時のJLPTの入社基準**



**■JLPT(日本語能力試験)とは？**

日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。

【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。

【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

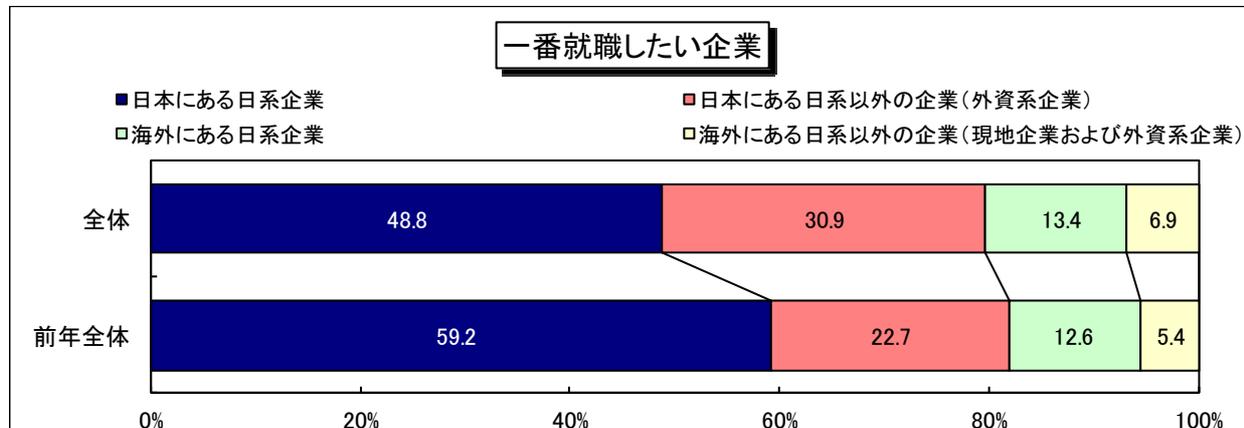
【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

【N4】基本的な日本語を理解することができる。

【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

## 2. 就職したい企業の種類

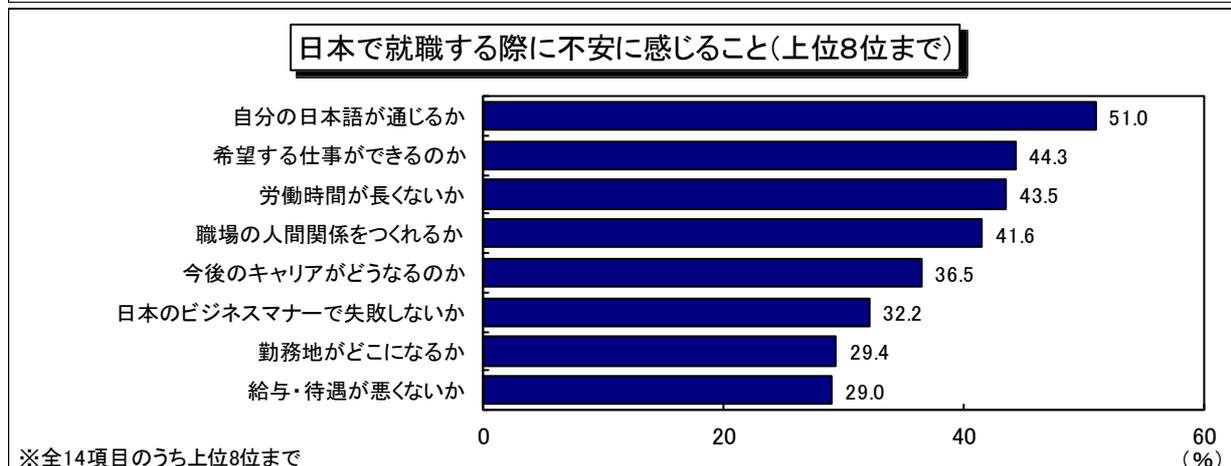
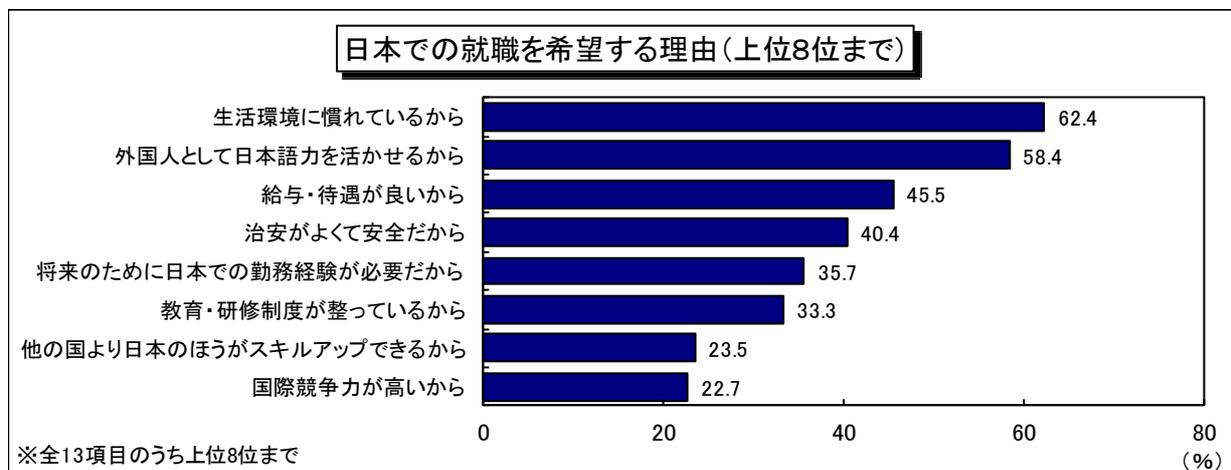
卒業後に就職したい企業は「日本にある日系企業」が最も多い（48.8%）。但し、前年調査より大きく減少し、代わりに「日本にある外資系企業」が増加した（22.7%→30.9%）。内訳は変わったものの、卒業後も日本で働きたいと考えている外国人留学生は、今年も約8割に上る（計79.7%）。



## 3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

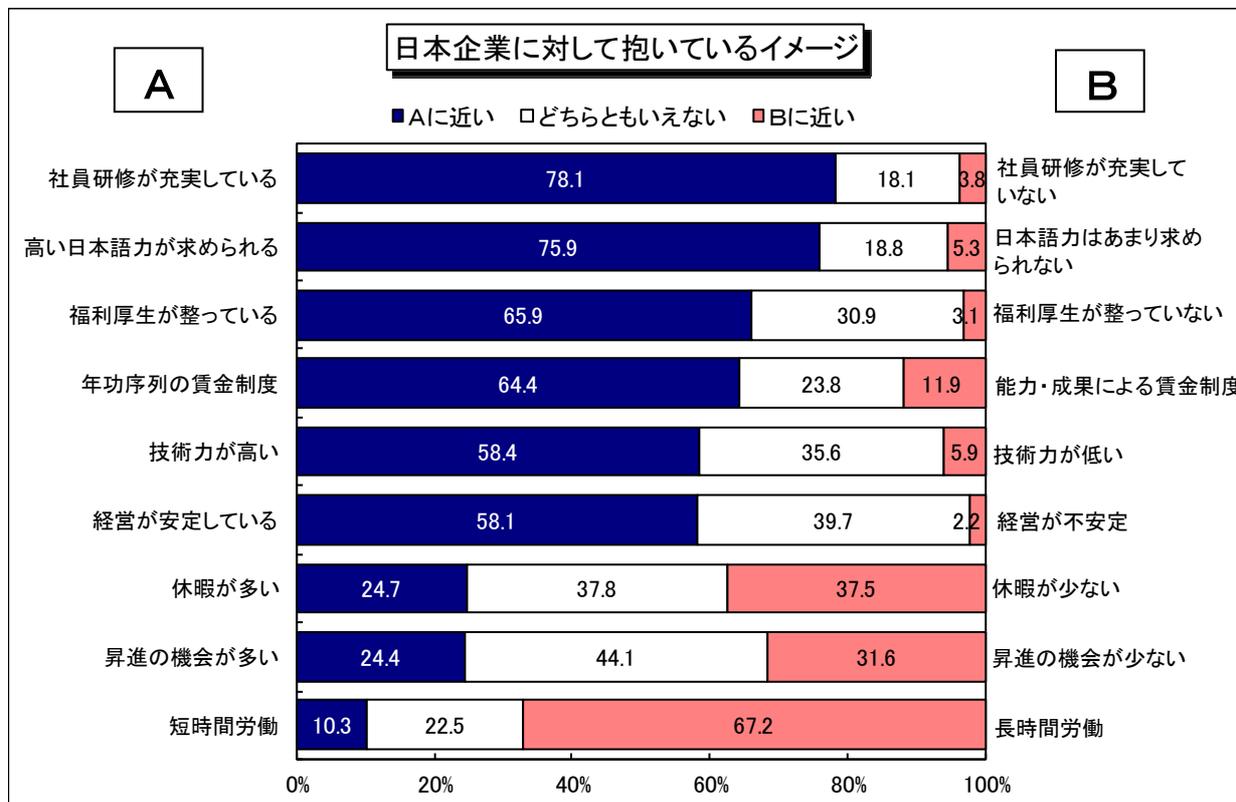
「日本で就職したい」と回答した人に、その理由と、日本での就職に対し不安に感じることを尋ねた。希望する理由で最も多いのは「生活環境に慣れているから」で、約6割（62.4%）。「外国人として日本語力を活かせるから」は2番目に多く6割弱（58.4%）。

不安に感じることで最も多いのは「自分の日本語が通じるか」で半数に上る（51.0%）。留学で培った日本語力を活かしたいと思う反面、ビジネスでの日本語に不安を感じているようだ。



#### 4. 日本企業のイメージ

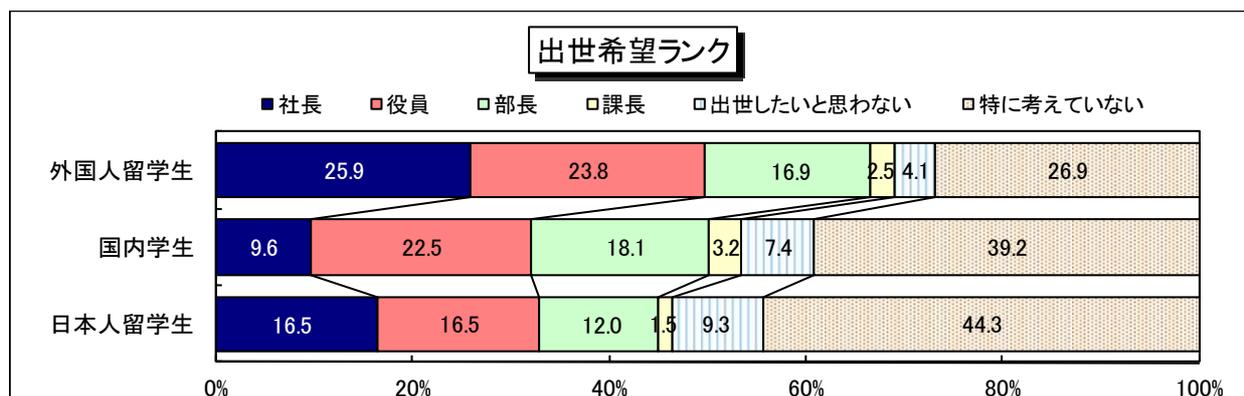
日本企業のイメージについて尋ねたところ、「社員研修が充実している」（78.1%）、「高い日本語力が求められる」（75.9%）、「長時間労働」（67.2%）、「福利厚生が整っている」（65.9%）など多くのポイントを集めた。数字が割れる項目は少なく、外国人留学生が日本企業に対して持つイメージはある程度共通していることがわかる。



- 専門知識がなくても最初から研修などで学べる機会が多い。 <韓国出身>
- 新人研修制度が非常に充実している。しかし、外国人として昇進できる機会が外資系企業より比較的少ない。 <中国出身>
- 無駄な残業が多い。上司が帰らないと、下の社員がみんな帰らない。 <中国出身>

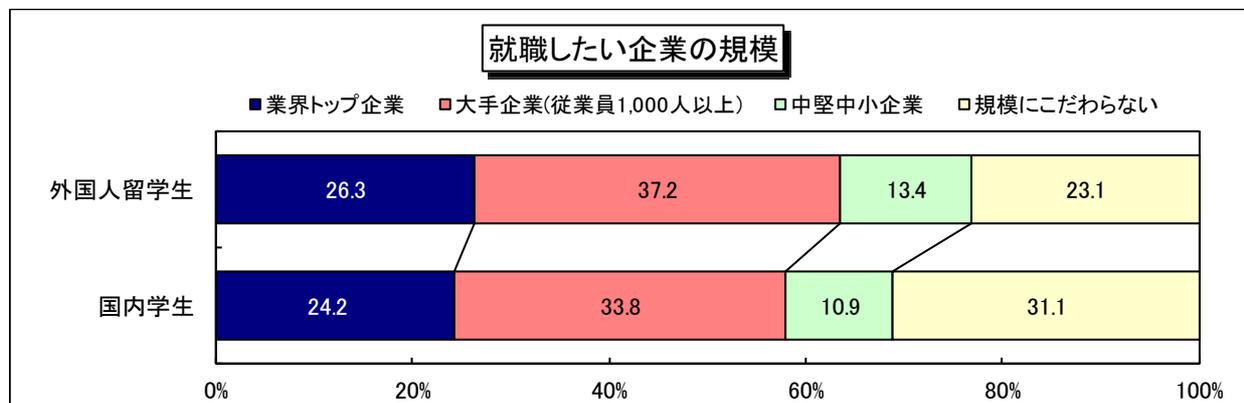
#### 5. 就職後の出世希望ランク

どこまで出世したいかを尋ねたところ、「社長」と回答した人が 25.9%で、「役員」は 23.8%。課長以上の管理職を志望する外国人留学生は約 7 割に上る（計 69.1%）。国内学生や日本人留学生と比べると、より上位の役職を目指している人が多い。



### 6. 就職したい企業の規模と志望業界

就職したい企業の規模は、「業界トップ企業」（26.3%）と「大手企業」（37.2%）を合計すると6割を超える（計63.5%）。大手志向と言われる国内学生より5.5ポイント高く、外国人留学生の大手志向の強さがうかがえる。一方で、「中堅中小企業」を希望する学生の割合も、国内学生を上回っており、希望の企業規模を明確にして就職活動をする傾向があるようだ。



続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらった。文系では1位が「商社（総合）」（35.5%）で、グローバルに活躍できる業界として毎年人気だ。2位は「ホテル・旅行」（26.4%）で、訪日外国人対応など企業側のニーズの高まりも影響しているのだろう。3位は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」（21.8%）と続く。

理系では、1位「電子・電機」（29.3%）、2位は「自動車・輸送用機器」（28.3%）、3位は「医薬品・医療関連・化粧品」「建設・住宅・不動産」（ともに26.1%）と続く。研究・開発職など専門性の高い仕事に就ける製造業が人気のようだ。

なお、国内学生と比較すると、特に文系において、国内学生では1位の「銀行」は7位、2位の「運輸・倉庫」は32位になるなど、志望業界の違いが顕著に表れている。

#### 就職活動当初の志望業界(上位10業界)

※40業界の中から5つまで選択（%）

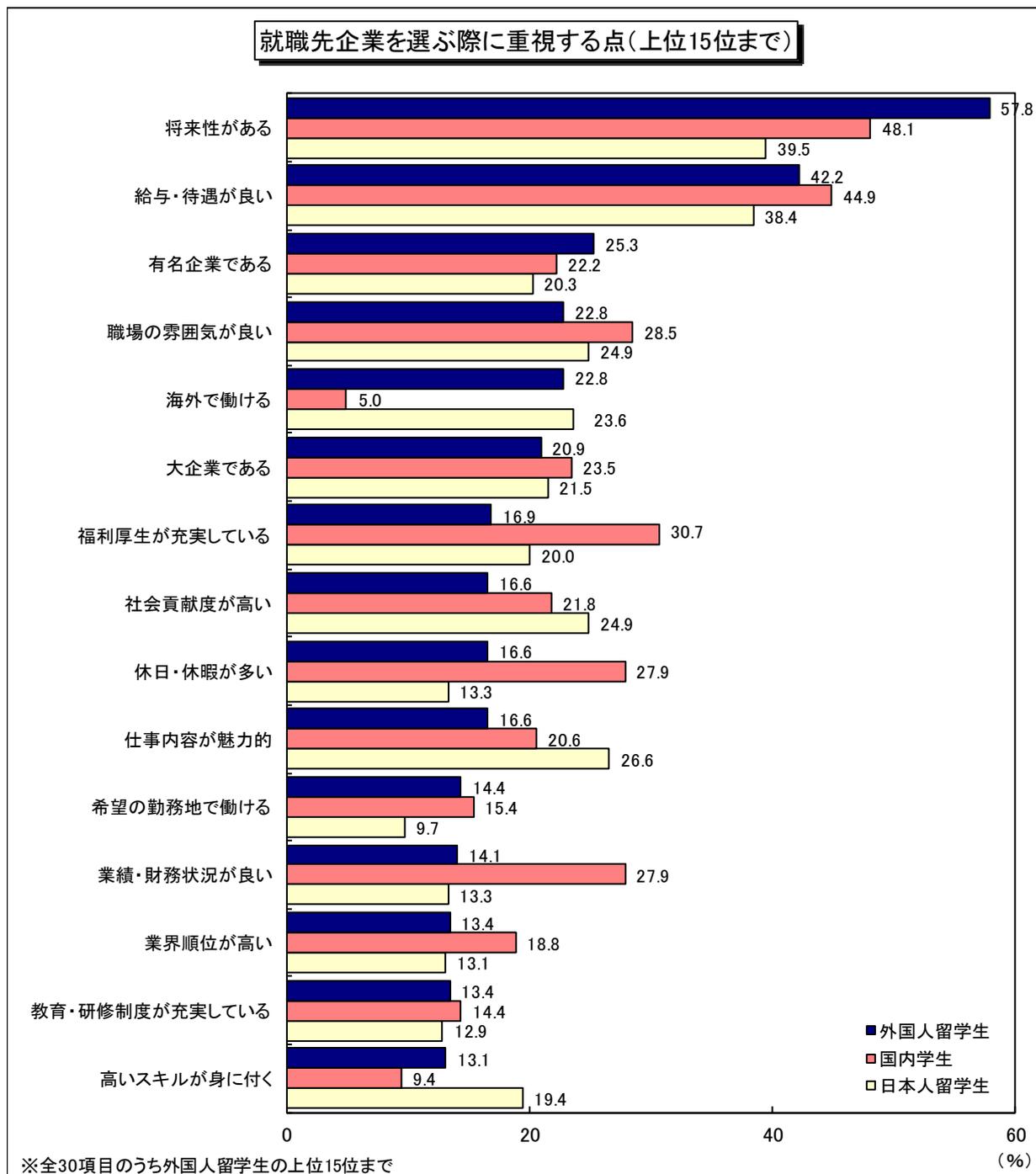
文 系				理 系							
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生					
1	商社（総合）	35.5	1	銀行	19.3	1	電子・電機	29.3	1	素材・化学	24.8
2	ホテル・旅行	26.4	2	運輸・倉庫	16.9	2	自動車・輸送用機器	28.3	2	電子・電機	21.3
3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	21.8	3	マスコミ	15.5	3	医薬品・医療関連・化粧品	26.1	3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.8
4	調査・コンサルタント	21.4		建設・住宅・不動産	15.5		建設・住宅・不動産	26.1	4	医薬品・医療関連・化粧品	19.9
5	商社（専門）	18.6	5	商社（総合）	15.4	5	機械・プラントエンジニアリング	25.0	5	情報・インターネットサービス	19.5
6	情報・インターネットサービス	17.7	6	調査・コンサルタント	13.9	6	情報・インターネットサービス	19.6	6	水産・食品	18.1
7	銀行	15.9	7	情報・インターネットサービス	13.0	7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	18.5	7	自動車・輸送用機器	17.7
8	人材紹介・人材派遣	14.1		水産・食品	13.0		素材・化学	18.5	8	精密機器・医療用機器	15.9
9	証券・投信・投資顧問	13.2	9	官公庁・団体	12.6	9	鉄鋼・非鉄・金属製品	16.3	9	建設・住宅・不動産	13.9
10	自動車・輸送用機器	12.3	10	商社（専門）	12.3	10	エネルギー	15.2	10	調査・コンサルタント	12.1
	電子・電機	12.3									

※国内学生は3月調査

### 7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

外国人留学生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が最も多く、約6割に上る（57.8%）。国内学生でも1位だが、外国人留学生の方が約10ポイント高い。2位は「給与・待遇が良い」（42.2%）で、国内学生と同水準（44.9%）。国内学生では、全体的に分散傾向が見られるのに対し、外国人留学生では、上位2項目にポイントが集中しているのが特徴的。

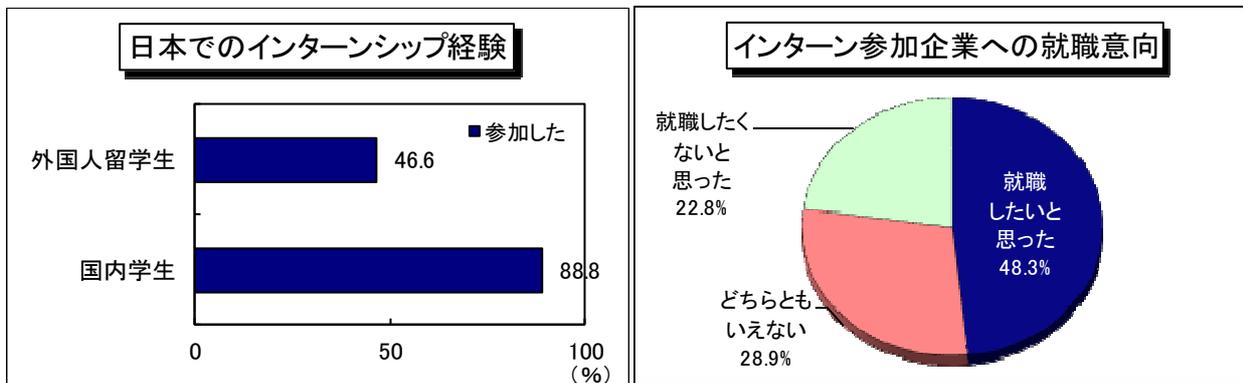
「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」などの働きやすさに関する項目は、国内学生ではそれぞれ3割前後と高いのに対し（30.7%、27.9%）、外国人留学生ではその半分程度にとどまっており（16.9%、16.6%）、国内学生ほど関心は高くないようだ。



### 8. インターンシップ

日本国内でのインターンシップ参加経験を尋ねたところ、「参加した」と回答した外国人留学生は半数弱（46.6%）。国内学生のインターン参加率（88.8%）の半分程度にとどまり、参加状況に大きな差が見られる。

インターン参加企業に「就職したいと思った」という外国人留学生は約半数（48.3%）。就職先企業選びに一定の影響を与えていることがうかがえる。



#### ■インターン企業に就職したい理由

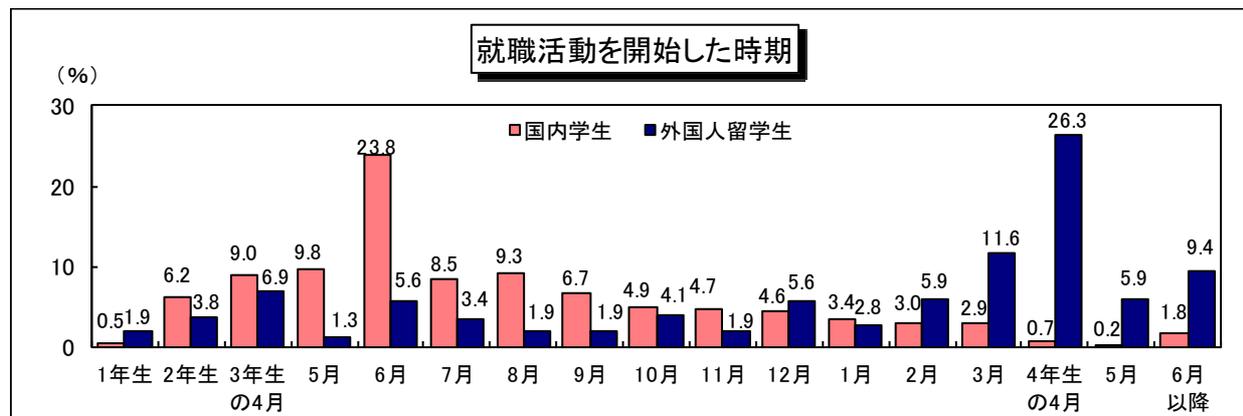
- 直接に訪問して、先輩達に色々なことを教えてもらいました。 <ベトナム出身>
- 働くイメージがより明確になり、志望度が上がったから。 <中国出身>

#### ■インターン企業に就職したくない理由

- 体験した後に、やりたいことの中にギャップを感じた。 <中国出身>
- インターン中でも残業が多かったので、正社員になったらさらに残業が多くなると思った。 <アメリカ出身>

### 9. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は、「4年生の4月」が約3割（26.3%）で最多で、次いで「3年生の3月」（11.6%）が多い。採用広報解禁（3月）以降の合計は半数を超える（計53.2%）。一方、国内学生では「3年生の6月」が最も多く（23.8%）、3月より前の合計が9割を超えている（計97.3%）。国内学生に比べると、外国人留学生の動き出しは遅いことがわかる。



- 研究室の同級生に、一緒にインターンシップに行こうと誘ってもらって始めた。 <3年生の12月/中国出身>
- 就活解禁とともに始めました。 <3年生の3月/スウェーデン出身>
- とりあえず、良い成績を収めるために学業の方に集中した。 <4年生の4月/韓国出身>
- 母国に帰って就職するか、日本で就職するかについて迷っていました。 <4年生の5月/中国出身>

### 10. 就職活動量と内定状況

調査時点（7 月）でのエントリー社数は、平均 22.2 社。同時期の国内学生（29.7 社）の約 7 割にとどまる。しかしながら、エントリーシート提出社数、筆記・WEB 試験の社数などは国内学生をやや上回る。志望企業を絞った上で精力的に活動している様子がうかがえる。

一方で、内定率は国内学生が 8 割超であるのに対し（84.0%）、外国人留学生は 4 割にとどまる（40.6%）。内定取得者も含め 73.2%が調査時点で就活中だった。国内学生（28.0%）よりかなり多く、動き出しの遅さから進捗の遅れが目立っている。

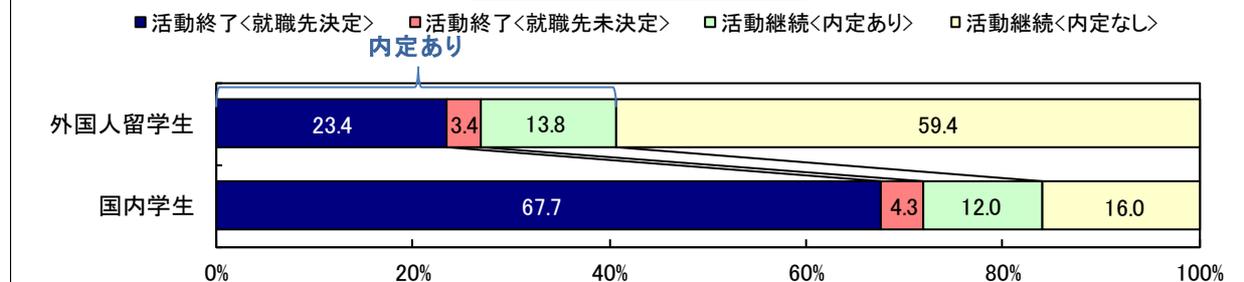
就職活動の社数

	全体		文系	理系	【国内学生】
	(前年)	(社)			
エントリー社数	22.2	27.6	24.5	15.4	29.7
企業単独開催セミナーの社数	10.0	12.4	11.1	7.1	11.8
合同開催セミナーでの訪問社数	11.0	11.1	11.1	10.8	11.0
学内開催セミナーでの訪問社数	4.8	5.6	4.7	5.1	6.7
エントリーシート提出社数	17.7	19.2	19.3	13.3	14.1
筆記・WEB試験の社数	11.1	12.1	11.9	8.9	10.2
グループディスカッションの社数	3.9	4.9	4.3	2.7	3.4
面接試験の社数	7.5	8.8	8.0	6.2	7.8

内定有無／内定社数

	全体		文系	理系	【国内学生】
	(前年)	(%・社)			
内定あり	40.6	42.6	39.2	44.1	84.0
内定社数／平均（社）	1.7	2.0	1.7	1.6	2.2

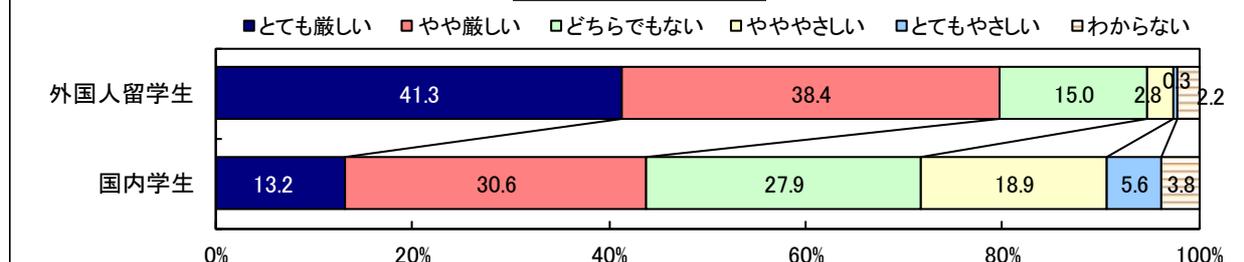
7月時点の就職活動状況



### 11. 就職活動の難易度

就職活動の難易度を尋ねたところ、「とても厳しい」（41.3%）と「やや厳しい」（38.4%）を合わせて約 8 割が「厳しい」と回答（計 79.7%）。一方、国内学生では「厳しい」は約 4 割（計 43.8%）と外国人留学生の半分程度。両者には顕著な差が見られ、大半の外国人留学生にとって厳しい就職戦線であることが表れている。

就職活動の難易度



## 12. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ねたところ、外国人留学生の1位は、「コミュニケーション能力」(58.1%)。次いで、2位「語学力」(35.3%)、3位「異文化対応力」(33.4%)と続く。留学経験を通じて向上させた能力を評価してもらいたいと考える留学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生が評価してもらいたいこととしては、「協調性」「コミュニケーション能力」「信頼性」などが上位に来ている。組織の中で円滑に業務を遂行できる能力をアピールしたいようだ。

企業に評価してもらいたいこと(上位10位まで)

外国人留学生		国内学生		日本人留学生	
1	コミュニケーション能力 58.1	1	協調性 43.1	1	コミュニケーション能力 52.5
2	語学力 35.3	2	コミュニケーション能力 37.7	2	異文化対応力 38.2
3	異文化対応力 33.4	3	信頼性 32.7	3	協調性 33.5
4	基礎学力 32.2	4	熱意 27.2	4	語学力 32.1
5	専門知識 28.4	5	明るさ 24.8	5	社交性 25.3
6	熱意 22.8	6	社交性 22.7	6	信頼性 22.6
7	明るさ 22.5	7	基礎学力 21.8	7	リーダーシップ 21.9
8	協調性 21.9	8	身だしなみ・マナー 17.8	8	明るさ 20.7
9	信頼性 18.1	9	一般常識 17.3	9	基礎学力 20.0
10	社会的関心 16.9	10	リーダーシップ 13.7	10	熱意 19.8

(%)

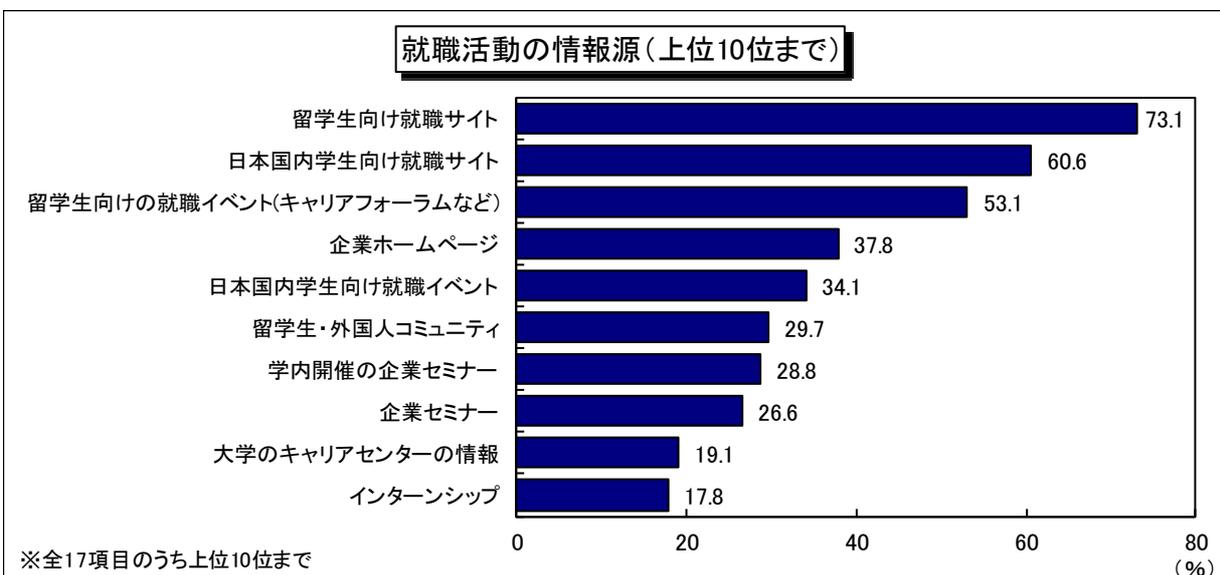
※全24項目のうち上位10位まで

## 13. 就職活動の情報源

外国人留学生が活用している情報源について尋ね、上位項目をグラフにまとめた。最も多いのは「留学生向け就職サイト」(73.1%)。「日本国内学生向け就職サイト」(60.6%)がこれに続き、就職サイトの情報を広く活用していることがわかる。

「留学生向けの就職イベント」(53.1%)、「日本国内学生向け就職イベント」(34.1%)など、イベントに足を運んで情報収集をする姿勢も見られる。

就職活動の情報源(上位10位まで)



※全17項目のうち上位10位まで

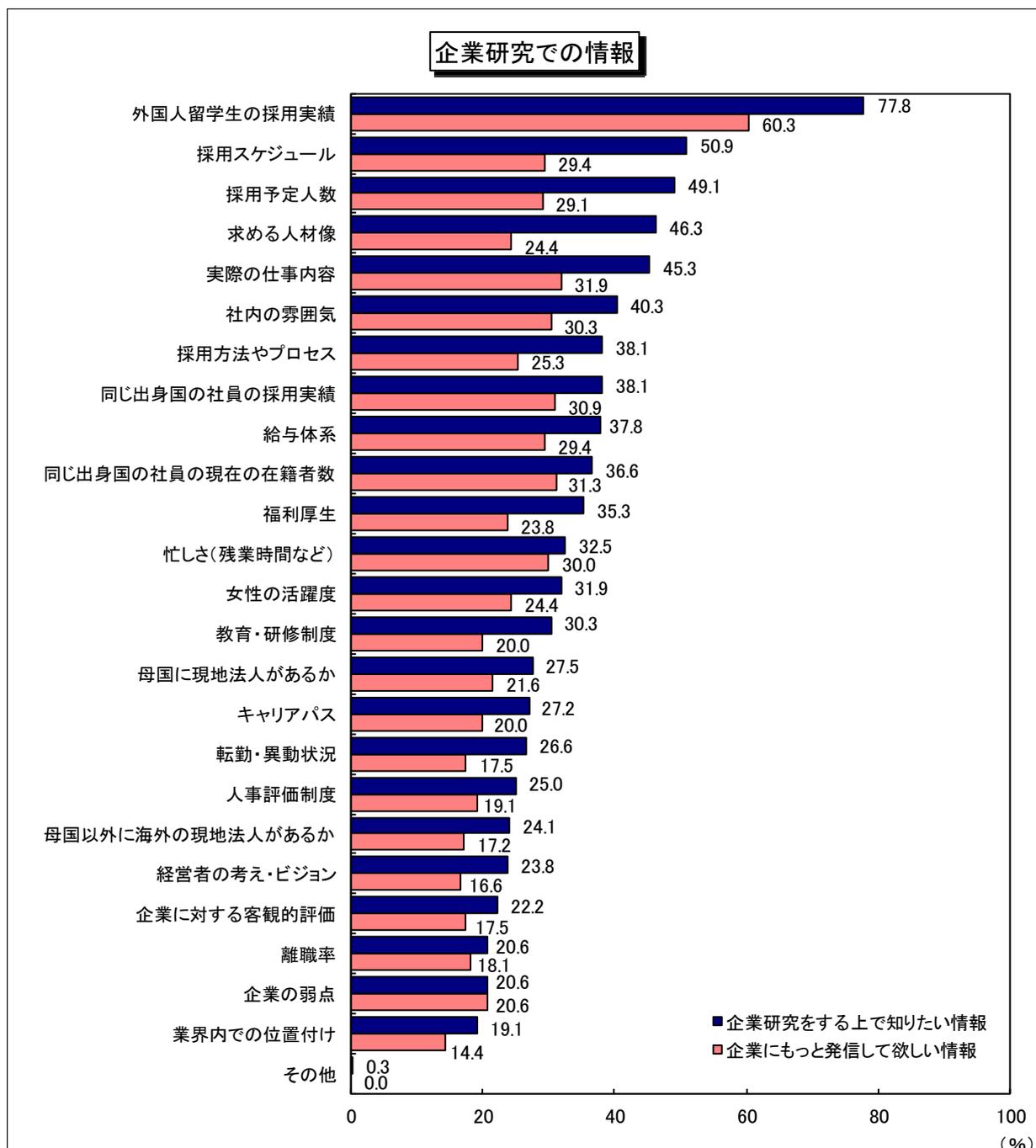
(%)

### 14. 企業研究をする上で必要な情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究をする上で必要な情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」について尋ねた。

まず、企業研究をする上で知りたい情報は「外国人留学生の採用実績」が 77.8%で圧倒的に多い。一方で、「採用スケジュール」「採用予定人数」といった基礎的な採用情報にも関心が集まった。

企業にもっと発信してほしい情報となると、「採用スケジュール」「採用予定人数」などの採用情報の数値は大きく下がり、企業側が積極的に情報発信している様子がうかがえる。「外国人留学生の採用実績」が約 6 割で最も多い（60.3%）。「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」、「同じ出身国の社員の採用実績」も約 3 割に上るなど（31.3%、30.9%）、外国人採用にまつわる情報の積極的な開示を企業に求めていることがわかる。

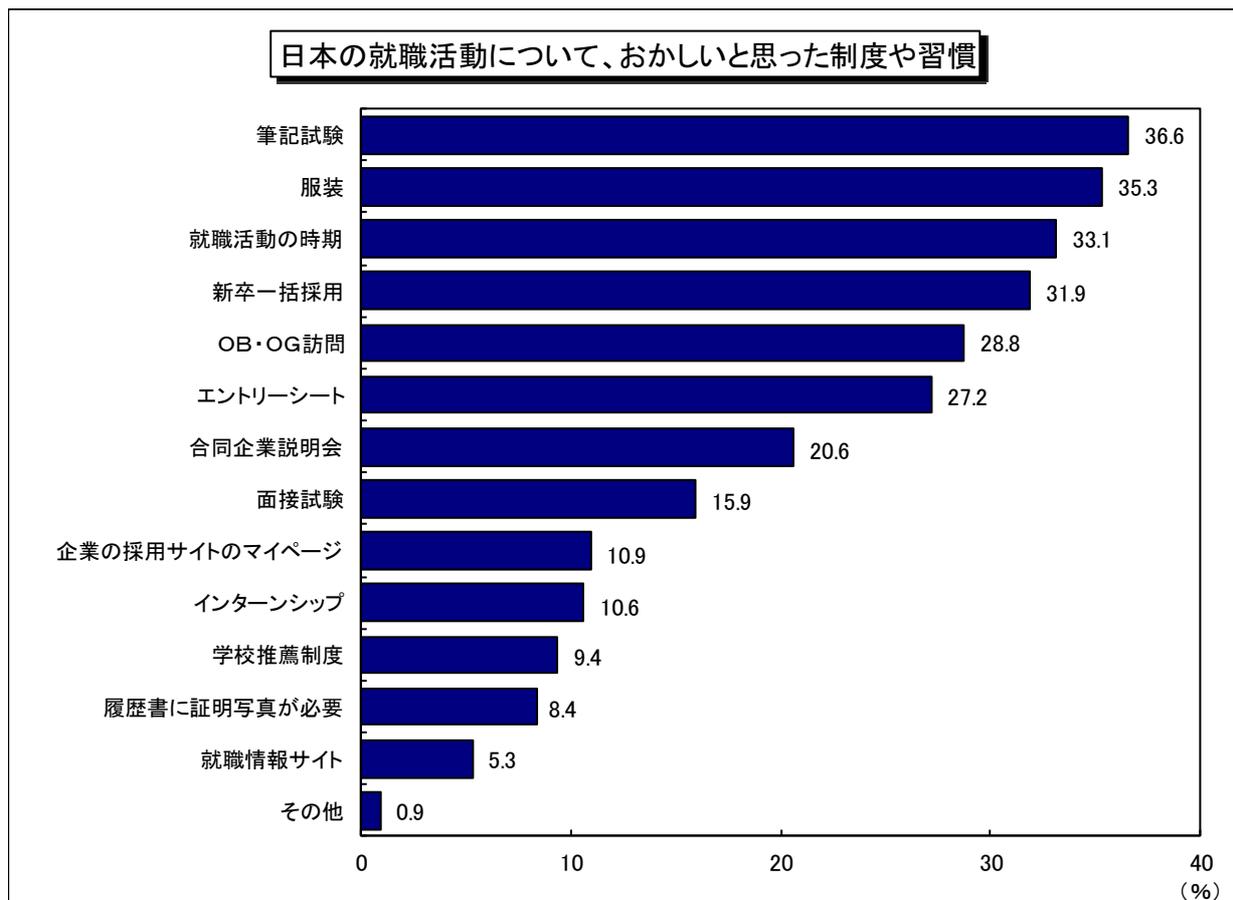


### 15. 日本の就職活動でおかしいと思った制度や習慣

外国人留学生が、日本での就職活動を通して、おかしいと思った制度や習慣を尋ねてみた。

最も多かったのは「筆記試験」で3割を超える（36.6%）。以降、僅差で「服装（リクルートスーツ）」（35.3%）、「就職活動の時期」（33.1%）と続く。

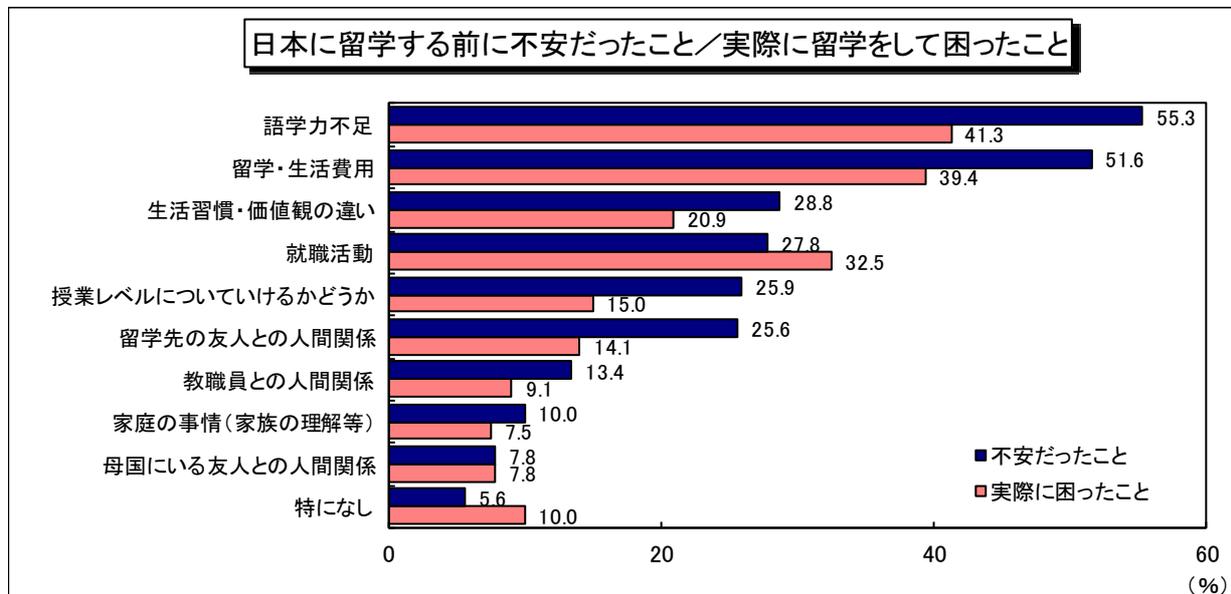
「筆記試験」については、日本人と同じ内容の筆記試験は難しく、留学生用を用意して欲しいというコメントが多く寄せられた。「就職活動の時期」については、早い時期に就職活動をするため学業との両立が厳しい、選考時期が企業によって異なるため対応するのが難しい、などのコメントが寄せられた。



- 筆記テストを日本人と同じ立場で受けることがありえない、留学生のテストが必要。 <韓国出身>
- 適性試験は時間制限が厳しく、本当に正確に測っているのか疑問に思います。 <スウェーデン出身>
- どうしてもスーツじゃないとダメなのか到底理解できない。欧米諸国はジーンズでもいいのに、カジュアルを不良扱いしないでほしい。 <韓国出身>
- SPI 試験の内容が留学生にはかなり難しく、高得点を取れないと次の面接には進めません。面接を受ける時のスーツは当然だが、説明会やセミナーなどは私服でもいいのではないかと思います。 <ベトナム出身>
- 就職の時期が大手、中小、外資バラバラで明確にしていない。留学生にとって理解するには時間がかかる。そのうちにチャンスを見逃してしまう。 <中国出身>
- 就職活動が始まる時期がおかしいです。授業もあるし、卒論も忙しいので、就職の準備をしないといけないのが心身共に厳しいです。 <中国出身>
- 一括採用は無駄にストレスがたまる。インターンシップは他国に比べて短くて得ることが少ないと思う。 <タイ出身>

### 16. 大学や公的機関で受きたいサービス・支援

「日本に留学する前に不安だったこと」と「実際に留学をして困ったこと」を同じ選択肢で尋ね比較してみると、留学自体の悩みは概ね解消される傾向にあるのに対して、就職に関する悩みだけ「留学前」（27.8%）から「留学中」（32.5%）へと 4.7 ポイント増えており、大きくなっていく様子が見られた。



- 今のところは就職活動が一番困っている。 <中国出身>
- 学校が留学生の就活を支援してくれなかった。 <台湾出身>
- 就活は4月から始めましたが、まだ内定を得ていない。就活のせいで貧乏になりそう。 <マレーシア出身>
- 日本語力不足のコンプレックスを自分で作ってしまって、就活中にたくさん悩まされた。 <フィリピン出身>

また、大学や公的機関で受きたいサービスについて尋ねたところ、「留学生採用に積極的な企業情報の提供」（58.4%）、「先輩留学生からの就職アドバイス」（55.6%）、「留学生が気軽に相談できる窓口」（40.0%）の順に多かった。外国人留学生の就職活動に特化した情報や、気軽に相談できる人・窓口を求めていることがわかる。

「特になし」を選択した人は 4.4%にとどまり、多くの外国人留学生が就職に関して専門的な支援を必要としていることが読み取れる。

